

一人ひとりの命が守られる社会へ 賃上げ・雇用を守る！

— 非正規差別NG・ジェンダー平等を広げよう —

第23回中央委員会で春闘方針を決定

建交労は1月29～30日に開催した第23回中央委員会で2022年春闘方針を決定しました。角田中央執行委員長はあいさつで、「苦難な時だからこそ建交労が『ワンチーム』となり22春闘のスタートダッシュを切ろう」と冒頭に呼びかけました。中央委員会はオンライン併用で開催され、廣瀬書記長から、パワーポイントを使って、要求闘争で組織内の求心力を高め、全組合員参加の春闘を追求するとともにコロナ対策の強化・いのちと暮らしを守るたたかいに全力をあげようと春闘方針案が提起されました。

賃上げの統一要求基準は「月額3万7500円、日額1750円、時間額165円以上の引き上げ」で、コロナ危機から労働者の仕事と生活を守る経済闘争の推進、国民の命を守る社会をつくり、自公政権を退陣させて改憲を止めることをめざします。

トンネルじん肺根絶第7陣訴訟を提訴

2月1日、全国7地裁に「全国トンネルじん肺根絶第7陣訴訟」（原告数は62人）を提訴しました。札幌地裁に提訴したのは道内の原告8人（このほか東京地裁に1人）です。新型コロナ（オミクロン株）の感染が急拡大しているため、この日原告は参加せず弁護団だけで訴状を提出したあと記者会見をおこないました。原告団長の古川榮治さん（函館）が提訴にあたって「この裁判の早期解決とトンネルじん肺基金の創設、じん肺根絶のためにがんばっていく」というコメントを出しました。

JR北海道 安全に関する労使合同会議

1月26日にJR北海道の第33回「安全に関する労使合同会議」が開かれ、建交労北海道鉄道本部から竹田委員長・最上書記長が参加しました。前段で、大雪による列車運休について、1月前半だけで昨年1月に運休した列車本数の倍近い数になっており、12日に千歳線が雪で埋まり、15日の大学共通試験前日には最終列車を繰り上げて札幌駅の除雪をおこなうなど社員が丸となって対応したことなど報告されました。降雪グラフが資料提出されましたが、今冬期の降雪量の異常さが見え、JR北海道だけの頑張りではこれに立ち向かうのも限界があると痛感させられるものでした。

今回の合同会議の主題は、昨年11月に9日間で3度の輸送障害があった新札幌駅から上野幌駅及び上野幌駅構内での事象への対応でした。軌道短絡事象は降雨時におきたもので、機器の交換などを行なったうえで後日残りの作業を実施する予定でしたが、作業実施日を前に事象が現れたため再度点検したところ、ケーブルの損傷を発見して交換作業などを行ない復旧しました。また、停止信号が現示した事象は、未使用のケーブルに通電していたために電圧降下が発生したためでした。過去に追分駅構内で信号が誤表示するインシデントが発生した時、ケーブルが集まるターミナルボックスの中は過去に使用していたケーブルも残ったままで「生き線」と「死に線」がグチャグチャの状態になっているという話もあり、目視できない電気を管理する上で新たな事象の発生や復旧作業が遅れることも想定されるので対策が必要だと思われます。